

自民、接戦1人区を重点 民進・共産、「3分の2阻止」を前面 参院選・最終盤攻防

朝日新聞 2016年7月8日

10日投開票の参院選は、選挙戦の最終盤を迎えている。安倍晋三首相（自民党総裁）は7日、福島県を遊説。接戦の1人区を重点的に回り、単独過半数も視野に勢いを加速させようとする。共闘する民進党の岡田克也代表と共産党の志位和夫委員長は、憲法改正に前向きな自民、公明、おおさか維新の会、日本のことを大切にする党を合わせた「改憲4党」が、憲法改正の国会発議に必要な3分の2議席を獲得するのを阻止する姿勢を前面に出す。

「日本を取り戻す。福島の復興をやり遂げる。この思いで政権についた。皆さんの力を結集してほしい」。首相は7日午後、福島県喜多方市の街頭演説で訴えた。自民党は福島選挙区で、民進現職と閣僚の自民現職が激しく競り合っていると分析する。首相は9日に半日間入る予定を前倒しし、「勝ちに行くため」（首相周辺）、7日に一日かけて同県内を回った。

6月初めにスタートした参院選の応援で、首相が福島に入るのは3回目。長野、青森、新潟もそれぞれ3回訪れている。これらはすべて接戦が伝えられる1人区だ。報道各社の情勢調査で自民の単独過半数も視野に入るなか、接戦区へのテコ入れに重点を置く。

一方、民進の岡田代表は7日、名古屋市での街頭演説で「憲法が変えられ、海外で武力行使できる国になろうとしている。安倍首相はなぜ選挙戦で急に口をつぐむのか」と訴えた。「3分の2を取れば『国民の理解は得られた』と言って必ず（憲法改正を）やってくる。この危機感を共有してほしい」とも語った。

岡田氏は、代表としての進退をかける1人区の三重や、兵庫、神奈川、愛知など与党と競り合う複数区を回って切り崩しを狙う。

共産の志位委員長は7日、東京都内の街頭演説で「自民への1票は憲法9条を壊す1票になる」と主張。記者団に「まだ情勢は変えられる。3分の2を許さない」と強調した。

4党首「東日本重視」…遊説、激戦区中心に

毎日新聞 2016年7月7日

今回の参院選は「1人区」（改選数1、32選挙区）を中心にした与野党対決が注目されている。公示日の6月22日から7日までに自民、民進、公明、共産4党の党首が入った選挙区を集計すると「東日本重視」が鮮明になった。

1日に同じ選挙区内の複数の場所で街頭演説しても1回と数えた。民進、共産などは全1人区で候補者を一本化しており、そのうち青森、宮城、福島、新潟、山梨、長野、三重、愛媛の8選挙区は4党首の訪問が計3回以上。与野党が激しく競り合っていることをうかがわせた。安倍晋三首相は1～2回と偏りが少ないのに対し、民進党の岡田克也代表は地元・三重に3回、公明党の山口那津男代表は公認候補がいる埼玉に4回、兵庫に3回入っ

た。共産党の志位和夫委員長も議席獲得の可能性のある東京で4回演説した。

1人区と「複数区」（改選数2以上）の比率をみると、首相は75%、岡田氏は68%が1人区。山口氏は75%、志位氏は73%が複数区だった。公明、共産両党は1人区では他党候補の支援に回っているが、自前の候補者を重視しているようだ。17選挙区には4党首がいずれも入っていない。【野原大輔】

参院選最終盤、与野党が重点区絞り込み 政策論争は盛り上がり

日本経済新聞 2016/7/8 1:20

参院選は10日の投開票に向けて最終盤に入った。与野党幹部は当落線上の候補がいる重点区に絞って追い込みに入る。与党は民進、共産両党の連携を「野合」と批判。野党は憲法改正に前向きな「改憲勢力」が国会発議に必要な3分の2の議席を占めることへの「危うさ」を訴える。一方、政策論争は盛り上がり、低投票率への懸念も強まっている。

安倍晋三首相（自民党総裁）は7日、福島県内4カ所で街頭演説を重ねた。改選定数1の福島では現職閣僚が民進党の候補と一進一退の接戦を繰り広げている。何としても落とさたくない選挙区の一つだ。

日本経済新聞社が実施した終盤情勢調査では、首相が目標に掲げた与党で改選過半数の61を上回る堅調な戦いを続けている。このため首相は最後の2日間、公認候補を2人ずつ出している北海道（改選定数3）と東京（同6）を回る予定だ。いずれも今回の選挙から定数が増えた。

首相の演説でボルテージが上がるのは民共批判のくだりだ。7日の福島県喜多方市での演説では「政策も理念も違うのに自公を倒すためだけに候補者を統一している。それを世の中では野合という」と主張。共産党幹部が防衛費を「人を殺す予算」と表現したことを繰り返し批判し、民進党内の保守票の離反を狙う。

過去最多の7選挙区に候補を立てた公明党は、埼玉と兵庫に応援を集中させる。定数3の両選挙区はいずれも自民党候補の当選が確実視されており、残る2議席を民進、共産両党などで激しく奪い合う。山口那津男代表は9日、兵庫で最後の訴えに臨む。

一方、民進党は改憲反対を最後まで強く訴える。「（安倍政権は）憲法改正を必ず仕掛けてくる。今は隠しているだけだ」。岡田克也代表は7日、東京都町田市の街頭演説で訴えた。

岡田氏は同日、32ある1人区（改選定数1）の中でも激戦が続く三重に入った。自身の地元でもあり、民進党の候補が敗れた場合は次の党代表選に出馬しないと明言し退路を断った。「三重は絶対に負けれない」と党幹部は口をそろえる。岡田氏は9日まで3日連続で三重に入る予定だ。

共産党の志位和夫委員長は、当選が見込まれる首都圏を中心に回る。おおさか維新の会、社民党、生活の党、日本のこころを大切に作る党、新党改革も議席獲得をめざし追い込み

をかける。

政策論争は低調だ。与野党の争点設定がかみ合わず、政治姿勢の批判に力を注いでいることが背景にありそうだ。

野党が強調する憲法改正は与党が争点化を避けてきた。首相は7日の演説でも憲法改正には触れなかった。一方、首相が「信を問う」と語った消費増税の延期は民進党も容認しており違いがみえない。

最大の争点であるアベノミクスも視点がすれ違う。与党は有効求人倍率などの「実績」を訴え、野党は個人消費の落ち込みや子どもの貧困率など「負の側面」を強調する。竹中治堅・政策研究大学院大教授は「アベノミクスを争点にする選挙は4回目で既視感がある」と指摘する。

英国の国民投票による欧州連合（EU）からの離脱決定やバングラデシュの首都ダッカでの飲食店襲撃事件など、国際的に大きな出来事が相次いだ影響もありそうだ。

舛添要一前知事の辞職に伴う東京都知事選は候補者を巡る報道が過熱気味。民進党の岡田克也代表は7日、横浜市内で記者団に「都知事選で参院選の露出が減って関心が薄れている」と語った。

投票率50%割れ 識者が懸念 「関心ある」 69% 04年以降最低

東京新聞 2016年7月8日

十日に投開票される参院選で低投票率を懸念する声が出ている。共同通信社が参院選ごとに有権者の投票動向を探るために行っている世論調査で、「参院選に関心がある」と答えた人の割合が今回、二〇〇四年以降で最低になったからだ。投票率が50%を切る可能性があり、日本大の岩崎正洋教授（政治学）は「棄権は望んでいない政治を行う政治家の思うつぼ。民主主義の危機につながる」と指摘する。（我那覇圭）

参院選の過去三回の投票率をみると、〇七年は58・64%、一〇年は57・92%、一三年は52・61%と低下している。前回は過去三番目に低かった。

共同通信が参院選に合わせて行う全国電話世論調査をみると、参院選に「大に関心がある」「ある程度関心がある」とした人の合計は今回、69%だった。

過去三回では〇七年は81・7%。一〇年は80・2%、一三年は73・9%。いずれも実際の投票率より20ポイントほど高く、投票率と同じような低下傾向にある。二つの数字は連動しており、今回の投票率を予測する上で有効な指標となる。

世論調査で有権者の関心が低くなっているのは、自民党分裂の可能性が指摘される東京都知事選、英国の欧州連合（EU）離脱問題に端を発した日本経済悪化の懸念、日本人七人が死亡したバングラデシュの飲食店襲撃テロなどで、参院選への注目が相対的に低くな

っているからだ。

今回の参院選は、高校生を含む十八歳以上から投票できる「十八歳選挙権」で注目を集める。しかし、全国で初めて十八歳以上が投票した三日の福岡県うきは市長選では、十八、十九歳の投票率は38・38%と低迷。全体の投票率56・1%より17・72ポイントも低かった。

期日前投票（選挙区）は三日までの十一日間で、六百五十六万二千二百三十九人が投票した。前回参院選の同時期と比べ、一・四三倍に伸びた。ただ、期日前投票は〇四年に導入されて以降増加しているが、投票率は低下傾向にある。

岩崎氏は「多くの方が反対したが、安全保障関連法は成立した。有権者の政治に対する『しらけ』が進んでいる。投票率が50%を割れば、大半の民意を反映しない政治家に政策を託すことになる」と述べた。

日本の命運がかかった選挙 9条守る平和の選択を 改憲問題が大争点に 東京 志位委員長が訴え

しんぶん赤旗 2016年7月8日(金)

日本共産党の志位和夫委員長は7日、東京都内での街頭演説のなかで、「選挙戦の論戦をつうじて9条改憲問題が大争点に浮上しました。戦後、憲法9条のもとで、自衛隊が一人の外国人も殺さず、一人の戦死者も出してこなかった平和の歩みを、ここで断ち切っているのかが問われています。日本の命運がかかった選挙で平和の選択をしてください。どうかその思いを日本共産党に託してください」と訴えました。

志位氏は選挙最終盤の情勢について、「比例代表も選挙区も、大激戦・大接戦のまま最終盤に入りましたが、各社の世論調査のなかで注目すべき点が二つあります」と述べました。一つは、比例代表の投票先をまだ決めていないという人が4割を超えていることです。いま一つは、参院選で重視する政策として安保法制・憲法改定問題が、社会保障や雇用に次ぐ争点として浮上していることです。

志位氏は次のように訴えました。

「安倍首相は『アベノミクス』と野党攻撃しか語らず、憲法を一切語ろうとしませんが、この選挙の最大の争点は憲法問題です。彼らは多数を得れば、この野望に本格的に手をつけようとするでしょう。安保法制＝戦争法と9条改憲で、日本を『海外で戦争をする国』にしているのか。まだ投票先を決めていないみなさん。どうか投票所に足を運んでいただき、この危険な道を許さない審判を下してください。憲法9条を次の世代に手渡したいと願っているすべてのみなさん。どうか日本共産党に一票を投じていただき、平和の選択をしてください」

反戦平和貫く党へ 東京 志位委員長・山添候補

「日本の命運がかかった選挙です。ぜひ平和の選択をしてください」—参院選最終盤の

7日、日本共産党の志位和夫委員長は、大激戦の東京を駆け巡り、希望ある未来開く日本共産党の大躍進と山添拓選挙区候補の必勝への支援を熱烈に呼びかけ、幅広い聴衆から共感が寄せられました。

吉祥寺駅前では、演説が始まると、猛暑にもかかわらず、聴衆が倍以上に膨れ上がりました。バイクや自転車を止めて演説に聞き入る人たちや、制服姿の高校生たちが感想を語りあう姿も。山添氏は「私達の未来を、抑圧と戦争に導く自民党改憲案を許すわけにいかない」と訴えました。

「この3日間で勝負は決まります」。こう力を込めた志位氏は、選挙戦最終盤の情勢の特徴について、▽比例投票先を4割の人が決めていない▽安保法制と憲法問題が大争点に浮上してきた一ことを指摘。「比例で日本共産党と書いてもらう人を広げに広げ、9人の当選を勝ち取るために全力を尽くしますので、みなさんの力をお貸しください。激戦を勝ち抜かせていただき、若いけど頼もしい山添さんを必ず国会に押し上げてください」と熱く訴えました。

志位氏は、安倍首相が、憲法9条2項を削除し「国防軍」をつくり、海外で無条件の武力行使を可能にしようとしていることが大争点になっていると指摘。「戦後、憲法9条のもとで、自衛隊は1人の外国人も殺さず、戦死者も出していません。被災地で汗を流した自衛隊員を海外の『殺し、殺される』戦場に送っていいのか。憲法9条を守る願いを党をつくって94年、ひとすじに反戦平和を貫いてきた日本共産党と山添さんに託してください」と呼びかけました。

何度も拍手を送っていた、2歳の娘の手を引く母親（33）は「共産党を伸ばし、子どもの未来のために憲法9条を守りたい」と語りました。

SNSなどで野党を応援する法政大4年の男性（22）は、税金の集め方・使い方、働き方のチェンジで格差の是正を訴える志位氏の呼びかけに、「富裕層、大企業課税は本当に必要」と期待を語りました。

上野駅前ではビジネスマンも足を止め演説に耳を傾けました。大学授業料を10年間で半減し、給付制奨学金を創設する党の政策を紹介した志位氏の訴えに、大学教員の男性（63）は「息子の同級生も、奨学金で800万円近い借金を負わされている。若者が報われる社会を実現する政策を断固支持します」と語りました。

赤羽駅前では、拍手を送る聴衆に仕事帰りの会社員らがどんどんと加わり、駅前は大勢の聴衆の熱気に包まれました。